

## ◆ 平成27年度活動報告シート ◆

団体名：わくわく新河岸川みどりの会

代表者：代表 山本長志郎

URL :

### 1. 活動が必要とされた状況

活動する前の黒目川と新河岸川の合流地付近は、クズが一面に蔓延、人が入れない場所でゴミの散乱場所となっていました。豊富な水量ながら生かされない湧水、一部の人に占拠された河川敷きなど長年の無管理がもたらした環境で手を付けられない状況でした。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

2008年4月創設。会員数18人。定例活動日 毎月2回（第2、第4水曜日）の他随時。

クズで覆われた広場一帯を管理者である県から朝霞市が借り受け、委託管理者となる。

\*当初はゴミの撤去、クズの根掘り、倒木した木の養生、地中の鉄類、ガレキ、石の撤去。膨大なクズの除去に限界を感じ、目標達成に県の事業に支援を求め提案し、採用される。

①シンボルツリー事業：広場の中心に「ケヤキ」植樹。周囲のクズが重機で除去された。

②水辺再生100プラン事業：湧水を活かし、ワンドに多くの生き物が棲めるビオトープや公道から合流広場まで歩ける遊歩道を提案。ホタルを育てる団体が結成された。

③川のまるごと再生事業：利用されない城山公園への導線、新河岸川までを水辺に親しめる環境を提案。旧黒目川溜まり池に棲むメダカ、トンボ、希少植物タコノアシ保存。

\*現在の活動内容：草刈り、石拾い、花壇づくり、樹木養生、ゴミ収集、在来種保護、外来種駆除、遊び場づくり、イベント企画、環境団体との連携、市内外への広報活動など

### 3. 活動の成果

- ・今まで生かされない環境資源を近隣住民はもとより、各地から人を呼べる場所となって蘇らせました。近くの保育園などから毎日のように子供たちが散歩コースとして訪れるようになり安全、安心して自然に触れ合う場ができたものと思います。
- ・県の川の再生事業の検討会では、該当の町内会、自治会、近隣中学校、環境に関わる市民団体など多くの人に参加してもらい、市民主体の景観づくりができたことが宝です。
- ・四季折々の草花で、多くの野鳥、昆虫が飛び交い、昔何処にでもいたメダカ、ミズスマシ、ヒキガエル、トンボも見られる場となりました。自然が広がる景色も絶賛できます。

### 4. 今後に残された課題

- ・高齢化に伴い作業も従来通りとはいかなくなりつつあります。後継者づくりが課題です
- ・旧川にアオコ、ガマなど発生。又ウシガエル、アメリカザリガニの駆除も課題です。



現在取り組み中のカイボリの様子（在来種、外来種の選別、保護）